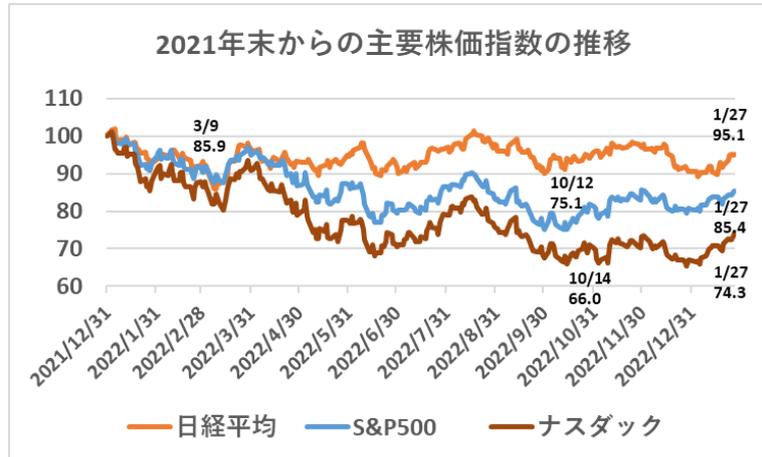


ATTENTION

1年以上下がっている株式市場をどう見ていたらいいか



2021年末からの日米株価指数を見ると、ずっと下がったままという状態です。米国株の代表的指数S&P500は、2021年末から-14.6%、ハイテクが多いナスダック指数に至っては-25.7%。ナスダック指数はアップル、アマゾン、マイクロソフト、アルファベットなどが上位に入っている指数ですから、それらの下げがいかにか大きいかわかると思います。昨年10月には、2021年末からS&P500、ナスダック指数はそれぞれ-24.9%、-34%の年初来安値をつけました。これほどの下げは、実にリーマンショック以来です。日経平均の下げ幅は小さいものの、2021年末を上回っていません(-4.9%)。どれも1年以上も下がったままという状況ですが、こういう時に私たちはどう見ていたらいいか。ここは非常に重要なポイントです。マスコミや様々なコメントを見ていると、目先の現象を追いがちで、下がれば悲観的なトーンになることがほとんどで、これから良くなるでしょうというコメントはめったに聞こえません。証券会社のセールスは、大きく下げれば「待ってました」とばかりに不安をあおって売らせませす。そして潮目が変わると、今まで言っていたことがうそのように、コロッと変わるので、これに我々は惑わされるのです。そこで大事なことは、自分の立ち位置を変えないで、しっかりと固めておくということです。要は、5年、10年の長期投資のスタンスを堅持する。長い目で見て、目先の下げに動じない。そして、お金があったら、安くなったよい会社の株を買う。こういうスタンスが大変大事です。世界最高の投資家といわれるバフェットはいみじくも言っています。「富は、我慢できない人から我慢できる人に移る。」

COLUMN

『貞観政要』は現代に通じる

最近、『貞観(じょうがん)政要』(全訳注)を読みました。770ページ一巻のみの文庫本です。中国の治政で政治が最も安定していたといわれる唐王朝、太宗の時代(627年-647年)。直前の王朝、隋が亡びることとなった煬帝の治政を戒めに、堯と舜の時代を模範として、太宗が家臣の諫言を奨励し、自らを戒めた様は大変感慨深いものがあります。『貞観政要』は、日本でも政治や組織のリーダーたちに長く読み継がれている書です。

重臣魏徵が太宗に上奏した「皇帝は船、民は水。水は船を載せるが、覆すこともある(「荀子」王制篇)」は有名で、いつの時代にも通じる言葉です。ただ、ここで興味深いのは、このように立派な治世を執り行った太宗でも、治世の後半には次第に人民の使役を多くして、人民の労力が割かれる行幸、宮殿などの建設が増えていったのです。そして終盤では多大な国力を費やした高句麗への遠征と失敗。治政20年の後半に、自戒が緩んでくるのが見えてきます。重臣たちの諫言のトーンも次第に厳しいものになっていきます。

ここで感じることは、いつの時代でも、どんなに優れた統治者であっても、次第に変貌していくということです。現代でも、10年という期間で区切って見て、2000年に権力を掌握したロシア大統領プーチン、2008年に事実上の中国トップとなった習近平国家主席。権力を握って10年以上たった今、この二人を見ると、独裁色は加速して、その行く末に危ういものを感じます。

MARKET

(1月末)

(12月末比)

日経平均

27,327.11円 ➔ +1,232.16円
(+4.72%)

NYダウ

34,086.04ドル ➔ +938.79ドル
(+2.83%)

米ドル

130.15円 ➔ -1.00円
(-0.76%)

私の書棚より

慈-他人の幸福を願う心

悲-他人を不幸から救い出す心

喜-他人の幸福を見て満足する心

捨-他人の幸福に執らわれない心

『四無量』(仏教 渡辺照宏著)

『幸せで健康な人生』は人との結びつきから

米国の有力投資情報誌、バロンズに最近大変興味深い調査・研究記事が掲載されていました。この調査・研究は、ハーバード大学、長生き研究所が1938年から現在まで85年続けているものです。その調査・研究は、人間の健康と幸せについて、85年前に下層階級から上層階級までの724人に対して始め、現在も、その子孫3世代にわたって進めているものです。その研究結果は、驚くべきものです。人間の幸せ、健康によいとされるのは、一般に仕事の達成度、運動、よい食事などですが、この研究によれば、一つの重大な要因が、常に広範囲に影響しているというのです。それは「人とのよい関係、結びつき」(good relationships)。

「人とのよい関係、結びつき」が私たちを”より幸せにより健康に”してくれるというのです。この研究によれば“これがすべて”と言っているほどです！ 85年に亘る調査・研究なので、人それぞれの人生に様々な成功、失敗、浮き沈みがあるのですが、いま80代(いわゆる長生き層)の対象者に訊くと、50代の時にコレステロール値がどのくらいだったかより、どれだけ人との付き合いで満足していたかが、あとの人生に大きく影響しているとのこと。逆に言うと、50代の時に人との付き合いで満足していた人は、80代でも心身ともにいたって健康というのです。他の研究でも、青年期にどれだけ人との付き合いや近い関係があるかが、学力よりも、大人になっての人物の良さを予測できるというのです！

どの年代でも、夫婦と一緒にいる時間が多いと幸せを感じる。人間にはいろいろな健康問題が生じますが、その中でも、よい人との関係を持っていると、その問題の程度が弱められるのです。「人とのよい関係」、これはすべての良薬なのです。

寂しさを感じていると、痛みに敏感になり、免疫機能、脳の働き、睡眠の充足度を低下させるとのこと。寂しいことは、高齢者にとって肥満より2倍も不健康で、どの年齢層でも、死亡率が26%も上がるとのことです。

どうして寂しいことが肉体的にそれほど有害なのか。この研究によれば、人類は互いに近い関係を持つように進化することで自分を守り、孤立していると感じると、警戒本能が敏感になり、睡眠が薄くなるとのこと。そしてストレスから心身が疲弊してくるのです。現代はより複雑で、会いたい人に会うことは中々かなわず、1年に1回会うのであれば、60代なら、一生でもせいぜい会っている時間は2日程度。月1回なら(これでもかなり多いですが)20日。一方で2018年の米国の調査で、テレビ、ラジオからスマホなどで過ごしている時間は1日11時間。60代であれば、そのあとの一生で9.2年にもなります。この過ごしている時間の差は大変大きいです。

このハーバード大学の調査で、70代や80代になった人たちが最も価値を見出せているのは、友達や家族との結びつきだとしています。そしてそれは、誰にとっても将来の人生の質を高める、いまからの“投資”です。

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に売っていただくのではなく、お客様にもっとも適した金融商品をお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男
公認投資助言者(RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311 電子メール：info@bfsc.jp